月刊 名大文学部

第 114 号
発行：名古屋大学文学部
広報体制委員会
koho@hum.nagoya-u.ac.jp

教員コラム―No.112

他者理解を通した自己理解：エチオピアから日本を見つめ直す

吉田　早悠里（文化人類学）

私は文化人類学が専門で，北東アフリカに位置するエチオピアをフィールドとしています。「なぜエチオピアをフィールドに選んだのですか？」と質問されることが多々あります。私がエチオピアをフィールドとすることになったきっかけは，学部３年生の夏休みにエチオピアをフィールドとする先生の調査に同行して，同地に 21 日間滞在したことでした。

エチオピアでは，当時 20 歳だった私が全く知らなかった世界が広がっていました。都市部では，高層ビルの前で少年が靴磨きをし，高齢者や病人が物乞いをしていました。農村部では電気や水道などのインフラが充分に整っておらず，移動にはもっぱら馬やラバが活躍していました。肉を食べる時には，羊やヤギを購入して自宅で屠殺することにもショックを受けました。現地で様々なことを見聞きし，体験すればするほど，それまで自分が当たり前だと考えていたことが壊れて，むしろ混乱していきました。大学院に進学した私は，エチオピアで現地の人の家に居候させてもらってフィールドワークを行うようになりました。バックパッカーの間で「腐った雑巾」の異名をとるエチオピアの主食インジェラを頬張りながら現地の言語や文化に習熟してエチオピアに染まった私は，エチオピアよりも，むしろ日本での暮らしに違和感や疑問を覚えることが多くなりました。日本って，何か変だなぁと。

エチオピアでは，愛情を示すときに主食インジェラをこのように相手に食べさせます。

文化人類学は，人間の文化の多様性と個別性，そしてその根底に潜む普遍的特性を明らかにする学問です。フィールドワークでは，現地の物事の見方を獲得して「現地の人」になることで自らが暮らす社会を相対的に見つめ直す，つまり，他者理解を通した自己理解を実践します。みなさんも，文化人類学とフィールドワークを通して，新しい世界と新しい自分に出会ってみませんか。

分野・専門紹介―File68

文学の魅力

分野・専門名：ドイツ語ドイツ文学

フランツ・カフカをご存知でしょうか。フランツ・カフカは，1883 年にプラハで生まれ，ウィーン近郊のサナトリウムで 1924 年に亡くなったユダヤ系の小説家です。主人公グレーゴル・ザムザがある朝目を覚ますと虫に変身していたという『変身』では，その非現実的な設定とリアルで細かな描写の対称性も相まって、不可思議な世界が織りなされています。

しかし，一見現実の世界から遊離したかのように見えるカフカの作品世界も，意外に当時の社会を反映しています。例えば，列車での旅に追われるセールスマンというザムザの職業，あるいは金ボタンの制服の父親の銀行の守衛という職業は，新しい時代の象徴だったのではないかと思われます。

カフカが生きていた時代のヨーロッパでは，現在の産業化社会が形成されていく一方で，民族主義運動

や労働者運動など，様々な動きが交錯していました。ハプスブルク帝国の属国であったチェコに生まれたユダヤ系のカフカがドイツ語で書いた作品は，こうした歴史的・地理的・社会的状況から生まれたものでした。

もちろん，そんなことは知らなくても，作品を楽しむことはできます。テリー・イーグルトンは，文学とは本質をいっさい持たないものであると述べています。文学は，人間のあらゆる活動・分野を題材として，いやそれどころか人間以外のものをも主人公として作品とすることができます。また，その文学を研究対象とする文学研究も，思想・哲学，心理学，歴史学など様々な方向からアプローチすることができます。これから多文化化・多言語化が進行していくと思われる日本社会を考える場合にも，文学作品の多層的・多元的な世界は，皆さんに多くの示唆を与えてくれるのではないでしょうか。　　（西川　智之・教授）

分野・専門紹介―File69

こころの疑問を科学する

分野・専門名：心理学

心理学とは文字通り，心に関する学問です。では，心とはいったいどのようなものでしょうか？私たちの行動？自分でも気付かない無意識？脳のはたらき？心は目に見えない曖昧なもので，人によって解釈の仕方はさまざまです。たとえば，私たちは生活するうえで何かを見たり聞いたりしています。晩御飯は何を食べようかと考えたり，退屈な時間が長く感じたり，昔のことを思い出して懐かしく感じたり…。これらはすべて，心のはたらきによるものです。このように，心は私たちにとって身近なものでありながら，曖昧なよくわからないものでもあります。そんな複雑な心を一体どうやって調べたらいいのでしょうか？

みなさんは日常で，些細なことに疑問を抱くことはありませんか？赤ちゃんってなんであんなにかわいいんだろう？思い出せそうで思い出せない現象ってなんなの？実は人の不幸を密かに喜んでしまうことがある…名大文学部心理学講座では，そんな何気ない日常からテーマを探し，日々研究をしています。

心理学では，さまざまな心のはたらきを科学的に解明することを目指しています。なんとなくこんな仕組みだろうな，という漠然とした答えではなく，自分で仮説を立てて実験や調査，観察などの方法でデータを集めます。そのデータを統計学によって解析することで，客観的な方法で答えを出します。

実験や統計学と聞くと，なんだか難しくて大変そう…，興味はあるけど具体的にどんなものかわからない…と思う方もいらっしゃるかもしれません。毎年 6 月に開かれる名大祭では，嘘発見器や錯覚，性格診断などを通して，気軽に心理学を体験できる企画を用意しています。私たちと一緒に心の科学に触れてみませんか？

吉岡　歩　（博士後期課程 3 年）

最近の文学部

猛暑の夏も終盤に。

春学期の終了が一週間ほどずれ込み，いつもよりあわただしい夏休み。名大生は家で興味のある勉強をじっくりやったり，感染防止をしながら自動車学校に行ったり，アルバイトもしたり，と充実した時を過ごしているようです。（YK）

＊本紙では，名大文学部の多彩な内容を順に紹介していきますが，それまで待てない人は…
名大文学部の WEB サイト　https://www.hum.nagoya-u.ac.jp/　まで（『月刊名大文学部』のバックナンバーもあります）